

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
東部教育局  
〒680-0846 鳥取市扇町2 1 番地  
東教発 H24. 4. 12 No.113  
<http://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 子どもの目の輝きのために

局長 久岡 賀代子

桜花爛漫の季節を迎え、躍動感溢れる周辺の春の息吹に胸の高まりを感じています。

各学校では、緊張感の中にも希望に満ちた平成24年度をスタートされたことと思います。東部教育局は12年目の春を迎えました。局のミッション『学校と市町教育委員会の自主・自立の確立に向けての支援・協働』を掲げ、15名のスタッフで、天命を迷わず、人づくりの一翼を担う責任を果していきたいと思ひます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



昨年度は、未曾有の大震災により尊い命、家屋、産業等、多くのものが失われました。しかしながら、この国難・危機の中で、日本の子どもたちの思いやりの心、困難に立ち向かう諦めない心の強さを再認識しました。まさに、これは人としての「生きる力」の基本です。今年度は、中学校も新しい学習指導要領のもとでの教育課程が始まります。地域に生きる子どもたちの主体的な「生きる力」を育むために、幼保小中高の校種間連携を中心とし、保護者・地域とともに子どもの実態や各教育課題に応じた取組が実現されることを期待しています。

教育を取り巻く環境は非常に厳しい昨今ですが、いつの世でも子どもの目は輝いています。子どもたちが学校を好きになる第一条件として、教師との出会いがあります。子どもの目の輝きのために、教師は「人を育てるプロであるという自覚」や「教育の使命」を忘れてはいけません。私たちには時代の流れを見据えながら、責任をもって子ども一人一人の可能性を伸ばすことが求められています。「学びの精神」をもって教師としての感覚や教育技術等を身につけるために研鑽し、気持ちを新たにそれぞれの教育実践に取り組んでいきたいものです。

## 学びの質の向上をめざして

今年度、鳥取県は全小中学校の全学年で、35人以下の少人数学級を実現しました。その趣旨を踏まえながら授業改善に取り組むことが大切です。

学びの自立

### 少人数学級を活かす授業改善

学びの楽しさ

#### めざす姿①：活用する力の育成

課題意識をもち、既習の知識・技能を活用し、自分の考えを深めたり、友達と協同してまとめたり、話し合ったりして課題解決する。また、自分の考えを記述して確かなものにしたり、伝え合って再構築したりする。

児童生徒主体の  
知識活用型授業

#### めざす姿②：内発的な学習意欲の向上

子どもたちが持つ知的な好奇心や探究心が喚起され、内から湧き出る意欲を持って主体的に学習する。学ぶ楽しさがわかり、課題解決のために「やってみよう」「調べてみよう」「考えを深めよう」といった意欲が高まる。

#### 授業改善のポイント

- 言語活動を充実させ、思考力を深める授業づくり
- 指導と評価を一体化させるきめ細かな手立て・支援
- 少人数学級の特性を活かした学習形態や指導法の確立

なぜかな？

もっと、知りたいな。



授業改善を進めるには、少人数学級を活かす授業のめざす姿を校内授業研究の視点の一つとして取り入れるなどして、普段の授業から児童生徒の主体的な学びが実現されるように、教師同士で学び合うことが大切です。

主として総合的な学習の時間

探究活動



習得・活用・探究をバランスよく取り入れることで意欲の向上につながります。

主として教科等

習得する活動

活用する活動

知識・技能と思考力・判断力・表現力等

# 温かい学級づくりをめざして

4月は、学校生活の最も大きな節目として、夢や希望をもつ時期です。この時期の児童生徒は、新しい先生や仲間に対する期待を膨らませたり、自分を高めようと意気込んだりするなど、よりよいスタートをしたいと願っています。反面、さまざまな環境の変化に対して不安を抱えていることもあります。児童生徒の笑顔が毎日見られるように、子どもたちが安心して楽しく生活できる温かな学級づくりに努めていきましょう。

学級目標は、一年間その学級がめざしていく方向であり、学級に所属する一人一人の心をつなぐものです。「こんな学級にしたい」という強い願いが込められたものとなるよう教師と児童生徒みんなで目標を立てましょう。

- <教師の基本姿勢>**
- ・児童生徒理解に努める
  - ・教育活動を絶えず工夫する
  - ・他の職員と連携し、組織の一員として動く
  - ・社会人としての自覚を常にもつ



学期末等の節目には、学級目標の達成度を話し合います。

## 教師と児童生徒、児童生徒同士 保護者との 信頼関係が大切

- <仲間づくり>**
- ・児童生徒同士のかかわりを深める工夫に努める
  - ・児童生徒の自治的活動を広げる教育活動を絶えず工夫する
  - ・児童生徒の気持ちや意欲を育てる環境づくりに努める

- <授業づくり>**
- ・子どもの実態を把握した教材研究に努める (一人一人の思考や集団思考が高まる発問の工夫、板書計画、授業形態の工夫等)
  - ・学習理解のための学習習慣を育てる
  - ・共に高まり合う学習集団をつくる

### お世話になりました - 転出者の紹介 -

東部教育局  
学校教育係  
学校教育係  
社会教育担当

次長  
係長  
指導主事  
副主幹  
非常勤職員  
臨時的任用職員

高田 治美  
森本 直子  
藤原 憲道  
松本 洋介  
池田 貴子  
佐々木 裕美

(子育て王国推進局子ども発達支援課へ)  
(八頭町立隼小学校へ)  
(小中学校課へ)  
(家庭・地域教育課へ)

### お世話になります - 転入者の紹介 -

東部教育局  
学校教育係  
学校教育係  
社会教育担当

次長  
指導主事  
指導主事  
指導主事

網川 昭夫  
小林 傳  
中村 礼子  
寺谷 孝志

(家庭・地域教育課から)  
(小中学校課から)  
(広島県との人事交流を終え帰県)  
(鳥取市立浜村小学校から)

### 東部教育局内の 担当分掌を紹介します

**局長 久岡 賀代子 次長 網川 昭夫**

学事係 TEL 22-1601

名前	主な分掌
吉田	○中学校人事管理
蓮佛	○小学校人事管理
福田	○教職員の給与・旅費 ○事務指導

社会教育担当 TEL 22-1604

名前	主な分掌
網川	○地域の教育 ○生涯スポーツ
寺谷	○家庭の教育 ○人権教育 ○青少年、成人教育 ○PTA

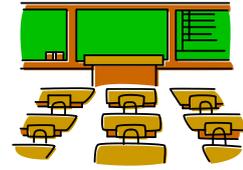
### 学校教育係 TEL 22-1602, 1603

名前	主な分掌
音田	○学校教育指導の総括 ○学校教育に関すること ○学校経営・運営に関すること ○研修派遣 ○地教委訪問・学校訪問 ○市町教委・各課・関係機関との連携
小林	○研究指定校の研究推進 ○中学校の教育課程 ○スクラム教育推進 ○図書館教育 ○エキスパート教員 ○校種間連携 ○鳥取市の中学校教育
小谷	○幼児教育 ○学校保健・給食・健康教育 ○長期社会体験研修
徳高	○生徒指導 ○情報教育・視聴覚教育 ○環境教育 ○学校安全 ○不登校対策 ○キャリア教育 ○進路指導・高校入試 ○八頭郡・岩美郡の中学校教育
岡本	○学力向上 ○道徳教育・心の教育 ○小学校の教育課程 ○鳥取市の小学校教育 ○豊かな体験 ○国際理解教育 ○初任研・経験者研修・教職員研修
中林	○特別支援教育 ○福祉教育
中村	○人権教育 ○教科用図書事務 ○学校支援ボランティア ○学校体育 ○特別非常勤講師 ○八頭郡・岩美郡の小学校教育
今西	○高等学校教育相談
山口	○高等学校教育 ○中高の連携



◇教師の基本姿勢 4つのポイント

- ① 児童生徒理解に努める
  - ・朝の学活で、児童生徒一人一人の表情に目を向ける
  - ・一人一人に積極的にかかわる
- ② 教育活動を絶えず見直し工夫する
  - ・学校教育目標（学年・学級目標）を意識しながら、教育活動に取り組む
  - ・児童生徒が生き生きとするための工夫や活動を考える
- ③ 他の教職員と連携し、組織の一員として働く意識をもつ
  - ・どんな小さなことでも「ほう・れん・そう」
  - ・他の教職員のよいところに学ぶ
- ④ 社会人としての自覚を常にもつ
  - ・教師は児童生徒にとって最も身近な大人のモデル（あいさつ、服装、姿勢、言葉遣い等）



教師の心のこもったひと声が、児童生徒の心の大きな支えにつながります。

他の教職員から学びましょう。子どもとの接し方、発言の引き出し方、学級掲示の仕方など、学ぶことはたくさんあります。

◇授業づくり 3つのポイント

- ① 子どもの実態を把握し、教材研究に努める
  - ・授業は「真剣勝負」
  - ・指導に生かす学習評価を実践する
  - ・指導内容を理解し分析して、指導にあたる（付きたい力、ねらい、評価規準、学習活動、発問、板書、教材教具 等）
- ② 学習理解のための学習習慣を育てる
  - ・学年に合った学び方やルール of 共通理解、共通実践
  - ・「読む」「書く」「話す・聞く」は学習の基本
- ③ 共に高まり合う学習集団をつくる
  - ・だれもが自分の意見や考えを言えるよう活動を仕組む
  - ・学習課題や手順を明示し、活動を見守る姿勢
  - ・話し合っ解決する楽しさの実感



付きたい力を明確にすること、知識・技能を活用する言語活動を設定することが大切です。

教師が一方向的に話しすぎていないか、児童の考えを引き出しているかなどを振り返りましょう。

一人一人の考えを安心して発表できる雰囲気づくりをすることが、集団づくりの第一歩です。

（東部教育局「園内・校内研修の手引き」より）